



TITLE:

静脩 Vol. 6 No. 2 (1969.7) [全文]

AUTHOR(S):

CITATION:

静脩 Vol. 6 No. 2 (1969.7) [全文]. 静脩 1969, 6(2)

ISSUE DATE:

1969-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/65931>

RIGHT:

指 定 図 書

安 戸 圭 一

新制大学ができた時、アメリカ側の勧告で、大学では講義1時間に対し、予習1時間、復習1時間を含めることとし、その予習、復習には主として図書館を利用することに定まっていた筈である。当初は、その急激な変化に耐えかねたし、図書館の設備も不足であったから、教員側も従来のやり方を踏襲することにしたが、それが今日にまでそのまま及んでいる模様である。

日本式のやり方は、教員が本当に憶えてしまわなければならない点を要領よく講述し、学生にそれに頼っておれば、機に臨んでも応用の途が開かれるという、いわゆる教育ママ的親切にある。数多い審査過程を経なければならない世界一流の学界において、日本の大学からでも、超一流ではないかも知れないが、一応の研究論文が発表できる事実は、日本式のこんなやり方でも研究者養成の目的は達せられていることを示す。

学生を勉強にかりたて、自分も採点に日夜を費さねばならないアメリカ方式を、教員として採用しないのは、大量生産式教育の学生数、雑務と会議が多過ぎるのとあわせ、容易に推察することができよう。

旧帝国大学は予算も多かろうという理由で、ひとまず辞退すると申し合わせているが、文部省では指定図書制度に予算をつけている。現在国立大学の半数近くに及んでいるが、学生用教科図書を何冊かずつ図書館にそなえるよう配慮したものである。

教員の個々が、自分の講義の足りないところを、学生各自で補充するため、一定の図書を指定し、講義と平行して読んでもらうようにしたものである。読んだ結果を、なんらかの方法でチェックするのであるが、その話を聞くと、教員側の苦勞も大変だという人があり、またうまく行っているという人もある。

本学では文部省の予算はないが、御希望教官にはこの方法も取れるよう、毎年指定図書の申出アンケートを取っているが、必ずしも熱心な御回答は集っていない。

先般日米大学図書館会議があった時、シカゴ大学図書館長も出席せられた。同大学はかつて私がいたところで、聞いて見ると共通の友人もあったので、話がはずんだ。この問題を論じたが、同大学でもこういった制度が一般化したのは戦後のことであり、当初はなかなかうまく進まなかった由である。まず隄より始めるよう盛んにおだてられたが、心ある教官の方に御一考を煩らわしたいと思う。

〔註〕 本項、実は〔参考図書〕といたいところであるが、図書館用語で〔参考図書〕とは reference book すなわち百科事典、便覧、その他通読を目的としない参照用図書を意味するので、ここに使えない。

(附属図書館長 工学部教授)

大学図書館界の動き

国立大学図書館協議会の総会開催

6月3日から5日まで、千葉を会場にして、本年度の総会が開催された。昨年の総会で、組織および活動をより強化するため、これまで全国国立大学図書館長会議と称していた名称を変更し、組織も大巾にあらためた。本年度総会は、組織変更後の最初の総会であった。

第1日の午前中は、理事会その他が開かれ、総会は午後から始められた。1年間の各種の報告および予算・決算の承認後、夕方より文部省の詳細な事務連絡があった。

2日目の午前は、各種委員会の報告と討議、午後は地区提出議題を3つの分科会にわかれて討議した。3日目の午前中は研究集会で、本年のテーマは、「事務量調査に基づく定員の問題」で、東北・東京農工、小樽の3大学から報告があり、質疑討論が行なわれた。午後の総会では、昨日の分科会の報告があった後、とりまとめの討論が行なわれた。

本年度の総会の特色は、揺れ動く大学像のもとにあって、大学図書館はいかにあるべきかという問題に論議が集中したことである。もちろん、簡単に結論を得られるべき問題ではないので、今後協議会としても、この問題に積極的に取り組むことになった。来年度の総会は、本館がお世話することになった。本年の経験を積極的に生かしていきたいものである。

新入生から要望などを募集

——附属図書館・教養部図書室——

去る6月2日から11日までの10日間、附属図書館の大閲覧室・第二閲覧室、教養部図書室において、新入生から要望・意見・質問などを募集した。その結果、附属図書館で1名、教養部図書室で2名の回答があった。前者に対するのはレインコートもかけられるロッカー設置の要望であり、後者に対するのは開架式（利用者が直接自由に手にふれることができる）図書の設置、現在1冊である貸出し冊数の増加、傘立て設置の要望であった。

附属図書館への要望については、関係者審議の結果、ロッカーを設置するとすれば相当数のものでなければ効果がないが、現在紛争校に指定され満足な予算が来ていず、また設置スペースの点でも問題があるので、本年の実現は無理である。しかし、今後、前向きの姿勢で何とかその可能性を求めていこうという結論に達した。

教養部図書室への要望については、該図書室では深重な検討を要するものがあるので、図書委員の教官と相談の上、結論を出し、何らかの形で回答するはずである。

大学図書館職員養成制度について訴える

小 国 健 一

大学図書館職員の養成については、今日まだその十分な養成制度がごく一部の例外をのぞき確立されていないため、大学図書館界が緊急に解決を迫られている課題の中でも、きわめて深刻なものとなっている。国の唯一の図書館職員養成機関は短期大学であり、各大学に昭和30年頃から設けられている図書館学の講座（夏期講習会形式のものも含めて）は、主として一般公共図書館の職員の養成を目的としたもので、大学図書館職員の養成には満足なものではない。これらの機関の卒業生たちは、整理技術をふくめた図書館学の知識をそなえているが、専門書を中心として取扱う大学図書館では十分な活躍を期待できない面がある。

私が10年間勤務した文学部図書室での主に整理面での体験を考えると、はやい話が、年間何千冊かの漢籍が受入れされてくるが、漢文の読解力がなかったら、いかに適確な整理技術をもっていたとしても、どうして図書の目録を作り、分類をすることができようか。草書や変体仮名が読めなくては一日本の古書について、またしかり。和漢書以外では世界各国語のものが受入れられてくるのに、アラビア・ペルシヤ語などになると、めったに教授してくれる機関もない。

さらにもっと基本的に考えてみると、利用のために整理するわけであるが、利用者の立場に対する理解を欠いては、これは全然ナンセンス—というのが理の当然であろう。したがって学問についての大略の知識を有することは大学図書館職員にとって不可欠の前提条件といえる。私は文学部の経験しか有しないので、他部局の図書室については同日に論ずるつもりはないが、この基本的な考えについては誤っていないと思う。

今や大学図書館職員養成制度の確立は時を失することのできぬものとなっている。本年はじめて文部省は国立大学図書館の中堅職員を対象に、人文・社会系 10名、数学・物理系 10名、化学・生物系 10名とわけて、8月初めに3週間の再教育を行なうとのことであるが—これは従来の「大学図書館員講習会」の4日間よりは画期的に長期ではあるが—3週間位で私の上述したような欠陥が克復できるだろうかと危ぐをもっている。簡便な法として、業務上必要を認められた者は学部の関係授業を聴講できるようなシステムもあると思うが、大学改革の波が高まっている折柄、この制度のこともぜひ洩らさぬよう考えていただきたい。

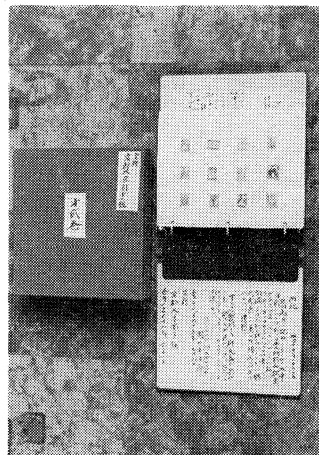
(附属図書館 書庫掛)

在米邦人園田平次郎氏より秘蔵の切手コレクションと 図書館学関係図書寄贈される

「前略 貴校盛栄敬賀の至りに御座います。小生幸ひ余世をアメリカに送っております。御休心。突然の申出であります。在米六十余年老千九百〇六年（明治三十九年）から郵便切手ユーズドを蒐集して来ました。……（原文のまま、以下略）」この書き出しではじまる昨年5月16日付け合衆国ワシントン州スポケン Spokane 市から寄せられた京都大学宛ての手紙が発端であった。この手紙によって、文中にもあるように、氏が60余年間働き蜂のようにして収集された総数4,854枚にのぼる珍重な切手コレクションが附属図書館に寄贈されることになった。切手は1853年から始まる1800年代のもの数百枚をふくめ、第一次世界大戦前後30ヶ国に及ぶものが重きをなしている。

第二次大戦時の日本人所持品調査にさいして、紛失をおそれ、紙にベタ張りにしたものを氏自らの手で製本された2冊の切手帳が送られてきたのは6月8日であった。

さらに園田氏からは“Scott's standard postage stamp catalogue” (call number 8-3 S16) が届けられ、また300ドルにのぼる希望図書の寄贈が申し出られた。この申し出に対して図書館学関係の図書を選定し、昨年11月20日、本年4月19日の2回にわたり合計40冊の発注を行ない、氏のご好意による図書はぞくぞく附属図書館に到着し利用を待っている。



附属図書館収集の「大学問題関係図書」目録（その1）

—— 昭和44年6月現在 ——

これは、昨年から今年にかけて集めた単行書を中心にした目録です。各件名の中の排列は逆年代順になっています。附属図書館では、今後もひきつづき「大学問題関係図書」を収集する方針をとっていますので、ある程度まとまればまた紹介する予定です。

この目録の図書は開架図書室に配架されています。（1部整理中）

〔記載順位〕 書名，編著者，出版社，発行年月，頁数

学 生 運 動

- 「全学連各派 ～学生運動事典～」 社会問題研究会編 昭44. 7 286 P 付表「全学連関係組織図（戦後学生運動の系譜）」
- 「資料戦後学生運動」（全8巻） 三一書房 I 昭43.11 541 P, II 昭44. 2 502 P, III 昭44. 4 502 P
- 「学生運動の論理 ～スチューデンス・パワーと新しい大学の展望～」 新堀通也著 有信堂 昭44. 2 219 P
- 「現代日本の学生運動」 広谷俊二著 青木書店 昭43. 8 241 P （青木新書）
- 「スチューデント・パワー ～世界の“全学連” —その底流～」 毎日新聞社編 同社 昭43. 8 236 P
- 「デモに渦巻く青春 ～現代学生の思想と行動～」 大野力著 番町書房 昭43. 2 282 P
- 「戦後学生運動史」 山中明著 青木書店 昭36.10 284 P
- 「現代の学生運動 ～その思想と行動～」 学生運動研究会編 新興出版社 昭36. 3 333 P

大学問題—大学紛争・大学改革運動

- 「大学問題文献年表 1966年1月—1969年3月」 『思想の科学』昭和44年6月臨時増刊号 94-127 P 閲覧事務室所在
- 「大学革命」 デビッド・リースマン著 国弘正雄訳 サイマル出版会 昭44. 3 299 P
- 「当面する大学問題」 日本共産党中央委員会出版局編 同局 昭44. 2 287 P
- 「私の大学再建案」 会田雄次外19名 新潮社 昭44. 2 221 P
- 「大学問題と学生運動」 高坂正顕著 南窓社 昭43. 9 237 P

京 都 大 学

- 「京大闘争 ～京大神話の崩壊～」 京大新聞社編 京大全共闘協力 三一書房 昭44.6 431 P

- 「おやじ京大に行く ～アンボエの構内御前会議？とその攻防～」 大西新蔵著 合同美術出版 昭44. 5 173 P
- 「文学部の民主的変革のために」 文学研究科大学院生協議会 昭44. 5 89 P
- 「京大闘争の記録 ～スクラムの海から～」 京大闘争記録刊行会編 昭44. 4 259 P
- 「レポート 揺れる京大 ～紛争の序章～」 京大問題記録編さん会編 現代数学社 昭44. 4 410 P
- 「京都大学東南アジア研問題資料集」 京都大学東南アジア研究センター問題対策協議会編 同会 昭43. 6 125 P
- 「京都大学自衛官入学反対闘争の記録 1964—67」 京都大学五者連絡会議 121 P

東 京 大 学

- 「私はこう考える ～東大闘争・教官の発言～」 田畑書店編 同書店 昭44. 6 316 P
- 「知性の叛乱 ～東大解体まで～」 山本義隆著 前衛社 昭44. 6 344 P
- 「東大全共闘 ～われわれにとって東大闘争とは何か～」 東大全学助手共闘会議編 渡辺眸撮影 三一書房 昭44. 6 238 P (写真共)
- 「東大闘争 ―その事実と論理―」 井上清著 現代評論社 昭44. 5 376 P
- 「ドキュメント 東大紛争」 内藤国夫著 文芸春秋社 昭44. 4 232 P
- 「東大変革への闘い」 東京大学全学大学院生協議会・東大闘争記録刊行委員会編 労働旬報社 昭44. 4 413 P
- 「岩の上にわれらの世界を」 東大全共闘会議編 亜紀書房 昭44. 4 653 P
- 「勝利へのスクラム ～東大民主化闘争の記録～」 全日本学生自治会総連合中央執行委員会編 新日本出版社 昭44. 3 400 P
- 「『七学部代表団との確認書』の解説」 (東大問題資料1) 加藤一郎著 東大出版会 昭44. 3 300 P
- 「東大紛争の記録」 東京大学新聞研究所・東大紛争文書研究会編 日本評論社 昭44.1 467 P

日 本 大 学

- 「日大紛争の真相 ～民主化闘争への歩み～」 日本大学新聞研究会編 昭44. 6 434 P
- 「増補叛逆のバリケード ～日大闘争の記録～」 日大文理学部闘争委員会書記局編 三一書房 昭44. 2 437 P

大学の自治と大学立法

- 「大学立法批判」 末川博編 法律文化社 昭44. 6 174 P
- 「国民のための大学」 自民党文教制度調査会編 自民党広報委員会出版局 昭44. 3 354 P
- 「大学の自治の歴史」 伊ヶ崎曉生著 新日本出版社 昭41. 5 228 P
- 「激流」 滝川幸辰著 河出書房 昭38. 2 274 P
- 「大学の自由の歴史」 家永三郎著 房鳩書 昭37 275 P

昭和43年度京都大学増加図書統計

(昭和44年3月現在)

計別 部局別 種別	増 加 数			累 計		
	和 書	洋 書	合 計	和 書	洋 書	合 計
図 書 館	2,895冊	630冊	3,525冊	290,374冊	133,984冊	424,358冊
法 学 部	3,814	3,472	7,286	141,694	198,875	340,569
医 学 部	761	1,521	2,282	24,152	65,143	89,295
病 院	157	260	417	9,005	19,480	28,485
工 学 部	3,424	7,664	11,088	72,020	121,615	193,635
文 学 部	7,027	6,338	13,365	326,201	178,194	504,395
理 学 部	791	5,266	6,057	25,645	127,963	153,608
経 済 学 部	3,533	2,375	5,908	117,999	131,941	249,940
農 学 部	4,872	2,875	7,747	104,872	99,432	204,304
教 育 学 部	2,104	1,843	3,947	19,883	21,413	41,296
薬 学 部	139	1,022	1,161	5,407	7,695	13,102
教 養 部	5,163	5,501	10,664	118,940	82,532	201,472
化学研究所	217	895	1,112	5,260	13,105	18,365
人文科学研究所	3,807	1,159	4,966	236,497	23,614	260,111
結核研究所	43	177	220	895	1,239	2,134
工学研究所	136	351	487	2,067	3,487	5,554
木材研究所	169	230	399	2,859	1,978	4,837
食糧科学研究所	207	383	590	1,886	2,285	4,171
防災研究所	259	722	981	3,267	4,277	7,544
基礎物理学研究所	151	894	1,045	1,562	11,743	13,305
ウイルス研究所	4	176	180	132	882	1,014
経 理 部	109	10	119	3,581	227	3,808
施 設 部	1	0	1	730	58	788
演 習 林	160	44	204	3,419	1,741	5,160
農 場	4	0	4	954	93	1,047
工業教員養成所	68	76	144	0	0	0
経 済 研 究 所	1,182	564	1,746	10,072	5,192	15,264
数理解析研究所	394	2,888	3,282	1,270	15,316	16,586
原子炉実験所	510	1,225	1,735	3,532	6,794	10,326
霊長類研究所	74	69	143	80	69	149
東南アジア研究センター	161	783	944	262	1,732	1,994
大型計算機センター	13	39	52	13	39	52
合 計	42,349	49,452	91,801	1,534,530	1,282,138	2,816,668
金 額	円 73,161,718	円 250,958,711	円 324,120,429			

あとがき いまや「大学問題」は、わはわれにとって最大の関心事となっています。この時期に、「大学問題」関係の図書を収集し、これをひろく京都大学の全員に、利用しやすい形にして提供することは、図書館職員の現在の義務とも考えられます。

このような意味で、資料紹介欄に、附属図書館収集の「大学問題関係図書」目録を紹介しました。解決へ前進する一助にならんことを期待しています。

京都大学附属図書館報「静脩」Vol. 6, No. 2 (通号29号) 1969年7月15日発行・編集発行人：
岩猿敏生 発行所：京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・電代表771—8111 (内線) 2220~2238